

# 京まち工房

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター



SPRING  
情報交流誌

no.

6

パートナーシップで進めるまちづくり

## 地域に生きつづける 京都・学生まちづくりコンクール

～表彰・発表会でフィナーレ～



京都市内の都心部（西陣学区・富有学区・明倫学区）と南部（高度集積地区）のモデル地区を対象に、大学生に京都の将来の地域まちづくりへの提案を求める「京都・学生まちづくりコンクール」。昨年9月から12月にかけて、各グループはそれぞれの地域で、意見交歓会、学習会等を経て、プレゼンテーション（作品発表）を行いました。そして、12月18日、コンクールのフィナーレとなる「表彰・発表会」において審査結果及び全作品の展示発表が行われ、盛況のうちに幕を閉じました（詳細は4ページに掲載）。

学生の提案を受け、現在地域では、部分的にもできるところから検討していこうといった動きや、コンクールの手法を生かした

新たな取組も見られます。例えば、堀川周辺の地域では、「堀川の再生」について、都市生活と水環境の観点から学生に提案を求めるコンクールが行われています。また、1月末に実施された「伏見 きのう・今日・あす」の区民フォーラムでは、南部地区の最優秀グループが作品の発表を行い、伏見のこれからのまちづくりについて参加者と共に考えました。

京都・学生まちづくりコンクールは、決して一過性のものではなく、そこで行われた学生の提案、そして地域の皆さんとの交流・学習の成果は、これからも地域の様々な取組の中に、そして、京都のまちに生き続けます。

## あなたのまちづくり 拝見

# 西大路駅周辺地区のまちづくり

～住民、企業のパートナーシップによるまちづくりを目指して～

住民主体のまちづくりを様々な視点から紹介するこのコーナー。今回は、京都市南西部の玄関口、西大路駅周辺のまちづくりです。ここでは、駅前の不法駐輪対策を契機に、住民、企業が手を携えて様々な取組を展開しています。

### まちづくりの課題

西大路駅を中心とする地域は、下京区及び右京区に隣接する南区の北東部に位置し、京都を代表する中核企業の事業所・工場の他、住宅も多く立地する地域で、京都の製造業における生産機能の大きな集積地として、特徴のある地域となっています。

一方、商業施設や道路整備などの生活・産業基盤面での整備については立ち遅れているといった側面があり、その一つとして西大路駅近辺での不法駐輪の問題が深刻化していました。このことは、地元自治会の長年の懸案事項であると同時に、この地域の企業からも社員や来客の安全なアクセスの確保といった点から改善の聲が挙がっていました。それぞれが悩みを抱える中、これまで、住民と企業が共存していくための相互コミュニケーションの場というのはあまりありませんでした。

### まちづくりのきっかけ

こうした中、行政の呼び掛けで、住民、企業が参加してまちづくりの課題について議論する機会がつけられ、西大路駅前の自転車対策について、三者が協働で具体的な取組を実施していくことが検討されました。そして、駐輪問題を解決するための組織として、地元自治会、企業に



公開空地の計画について意見交換を行っている様子

よって構成される「西大路駅周辺を美しくする会」が平成9年10月に結成されました。そして昨年の5月、駅北側に暫定駐輪場がオープンしたことを機会に、自転車の駐輪場への出入りが集中する平日の朝、自転車の整理や駅周辺の清掃等具体的な活動が開始されました。

地域住民が主体となり企業の社員と協力して日常活動を実施し、その活動資金を企業が提供するという基本的な役割分担のもと、駅周辺の美化をはじめとする積極的なまちづくり活動に取り組まれることになりました。

### 協働のまちづくりの展開

毎朝の地道な活動が行われている中で、地元の企業である株式会社ワコールから、駅前での新本社ビル建替えに伴って敷地の一部を公開空地とし、それを地域のためにどのように使ったらよいか地域住民

の方々と共に検討できないか、という提案がありました。これを受けて地域の関係者が集まって公開空地のデザインや機能、使い方等について自由に考える機会としてのワークショップが、昨年の12月から今年1月下旬にかけて計4回開催されました。その結果、敷地の一部(約1,000m<sup>2</sup>)を駐輪スペースとして確保し、公的な主体が駐輪場を設置・運営するとともに、その他を並木、花壇や起伏のある芝生、イベントができる広場、シンボルとなる時計塔等を効果的に配して、みんなが通りやすく、使いやすい、また、見通しのよい憩いの広場のイメージ案ができました。



西大路駅前での早朝美化活動の様子

### これからのまちづくり

ワークショップで議論された公開空地の案が形となって姿を見せるのは、平成11年の夏頃の予定で、今後は公開空地を

## 「西大路駅周辺を美しくする会」の中心メンバーと(株)ワコールさんにお話を伺いました。

会長(祥豊自治連合会会長) 愛下 正道さん

50年程前まではこの一帯は農地であり、駅を降りると西側は桂川まで見通せる程でしたが、今や住宅地の中に、京都を代表する大企業や200もの中小企業が集積する一帯となりました。昔からの住民の数も減り、近年は大型マンションの建設で新住民が随分増えていることから、地域コミュニティの活性化が今後の課題だと思います。

これまで、2つの学区にまたがり、企業、行政と協力して駅前の駐輪対策を行ってきたわけですが、今後は、「西大路駅周辺を美しくする会」を発展する形で、まちの課題に取り組む組織づくりを行う必要があるかと思っています。

副会長(唐橋自治会連合会会長) 木浦 正雄さん

これまで、学区においても、子供やお年寄りといった人と人との交流や福祉に重点を置いた人にやさしいまちづくりをテーマとする取組を実施しています。

今回のように、2つの学区が協力し合って取り組んだことで、駅北側の路上駐輪・不法投棄等もかなり改善され、一つの成果につながっています。また、ワコールさんのご協力のもと、地域住民の提案・アイデアを集めた広場や、新しい駐輪場が完成し、このことが更に駅周辺の整備につながって、高架下の通路等も幼稚園児が安心して通れるようになればと思います。

今後は、こうした取組に対する地域住民の意識づくりについても必要だと感じています。

事務局長(祥豊自治連合会総務) 加藤 修三さん

西大路駅前での駐輪の整理等の活動については、会のメンバーで交互にローテーションを組み、1ヶ月に延べ60～90人もの動員で実施しています。ほとんど毎朝のことなので、続けていくのは大変なことです。少しずつ成果も見えてきています。今年の夏にはワコールさんの公開空地に併設して新しい駐輪場ができ、駅周辺の駐輪の状態もかなりの変化が予想され、その様子を見ながら対応策を検討する必要があると思います。

また、今回の取組を通じて、環境に優しい交通手段としての自転車を優先したまちづくりや、駐輪をはじめとする地域におけるマナーの問題など、子供の頃からの教育の必要性を感じました。

お知恵拝借～

## (社)奈良まちづくりセンター 「奈良町よ蘇れ」

JR奈良駅の東、近鉄奈良駅の南に「ならまち」と呼ばれる地域があります。

奈良町は平城京の時代に発生した都市で、昨年世界遺産に登録された元興寺の旧境内を中心とした一帯に、寺社文化を背景に門前町として栄えました。その後中世には、産業・遊興都市へと変遷発展し、現在においても江戸時代末期から明治時代にかけての町家の面影を今に伝える町です。

しかし、高度経済成長期に入ると、若者が町を離れ、お年寄りが多くなり、奈良町の面影や住民の町への思いも次第に風化していきました。

そのような状況を危惧した仲間十数人により、今から20年前、奈良町の歴史的町並みの保全と再生のため、「奈良町よ蘇れ」を合言葉に、まちづくりNPO「奈良地域社会研究会」が発足しました。

「発足当時は、行政の計画に対する反対運動ではないかと風当たりが強かったですね」と理事長の黒田睦子さん。

### まちづくり団体として初めて法人格取得

それから5年後、まちづくり団体として初めて法人格を取得し、奈良の歴史的風土、町並み保存等の歴史的環境の保全と、「日本のこころのふるさと奈良」にふさわしいまちづくりを通じて住民主導のまちづくりを推進することを目的とし、社団法人 奈良まちづくりセンターが誕生しました。

現在では、行政の信頼も厚く、会員である建築家、都市プランナー、都市計画の行政職員をはじめとする専門家の職能を活かしたシンクタンク機能により、奈良市だけでなく県内外からも調査研究業務を受託するなど、幅広く活動しています。

また、そうした活動の中、平成4年に、奈良市に提案を行い、それを受けて、市は「ならまち賑わい構想」を策定しました。平成6年4月には、奈良町地区（約48ha、45町、1,600戸）を奈良市都市景観条例に基づく都市景観形成地区に指定し、伝統的景観に対する修理・修景に対し、補助金が交付されています。

### 今後の展望

初期目標である奈良町の町並みの保全再生はその仕組みづくりについてほぼ達成し、観光客も増えてきました。しかし、高齢化が進み一人暮らしのお年寄りが増える中、高齢者、障害者が安心して住め、そして働ける町、「生

活の質」を見据えた誰もが住み続けられる町にしていくことがこれからの重要課題となっています。

2年前には、専門家による「大和まちづくり技術者ネットワーク」（まかしといてやネットワーク）を立ち上げ、段差の解消や手摺りの設置などを実費程度で行ったり、相談を受けたりしています。

しかも、こうしたセンターの活動のほとんどは、役員、会員等のボランティアによって行われています。「行政のできない部分で、NPOができることはたくさんあると思います。パートナーシップといいますが、実際どのようにパートナーを組むのかということとはとても難しい。奈良町の保全と再生においては両者の考えがタイミング良く一致したのでうまくいきましたが、今後新たな課題に取り組むうえでどのようにパートナーを組んでいくかが大きなポイントになると思います」（黒田理事長談）



(社)奈良まちづくりセンター理事長 黒田 睦子さん

美しい状態で維持していくことや積極的に活用していくことなど継続的な協働の取組が求められています。

住民、企業といった、まちづくりの担い手が、協働で地域のまちづくりに取り組む際には、その立場や地域に対する思いが少しずつ微妙に異なります。各地域のまちづくりにおいても、今回のように、最初にまちづくりの方向性を確認したうえで、それぞれが役割分担してできることに取り組むという継続的な活動とその体制づくりがポイントとなるのではないのでしょうか。

(株)ワコール 取締役総務部長 加藤 道彦さん

本社ビル建替えに伴い、敷地に計画した公開空地を維持・管理も含めてどのように使うかが我が社の懸案でした。“西大路駅周辺を美しくする会”に参加している関係で、ワークショップ形式での検討となりましたが、最初は多くの方のご意見を聞くのでどんなものができあがるか心配していました。しかし、バランスの取れた意見交換がなされ、最終的には、駅前にうらおいや季節感を感じる空間が欲しいといった様々な意見を取り入れた計画となりました。今回の取組は、今後、公開空地の維持管理を行う上で、地域や行政との連携が展望できる一つのきっかけであったと思います。

また、今回の取組を通じて、まちの構成員としての企業が、これまでの表面的な地域への関わりではなく、本腰で地域まちづくりに取り組む姿勢が必要ではないかと感じています。

## 参加しました！

「'98全国町並み年」 - 京都ミニゼミ -

### 「町を生かす新しい動き」

全国町並み保存連盟は、全国各地で町並みの保存に取り組んでいる市民団体です。設立25周年を迎えるに当たって、昨年の11月14日、西は福山市から東は名古屋市まで関西を中心に70名を超える参加者を迎えて京都ミニゼミが、元龍池小学校の講堂で開催されました。各地で繰り広げられている、まちを生かす新しい動きについて紹介します。

「お知恵拝借」のコーナーでもご紹介しています奈良市の(社)奈良まちづくりセンターからは、古い町家を改修した「奈良町物語館」での、地元工芸作家の実演を交えた交流会「こうげい夜話」や専門家による町家の保存修復相談会「まかしといてやネットワーク」等の多様な交流について報告がありました。

松阪市のあいの会「松坂」からは、お年寄りが松坂のまちを若者に語り継ぐことを通じて、新しい何かが創造されることを狙った取組について報告がありました。これは、「トークりめいつ」（トーク=語らい、クリエイト=創造、メイツ=仲間を組み合わせるもの）と呼んでいます。最近の成果として、会員の若い女性が古い町家でアトリ工芸ショップを始めたそうです。



京都ミニゼミの開催の様子

地元京都市の西陣活性化実顕地をつくる会からは、まちの活性化のためと言うよりもアーティストをプロデュースしたいという思いから、古い空き家を借りて住める程度に改修し、外国人アーティストに一定期間滞在してもらい、西陣で活動ながら日本の文化を学んでもらおうという「アーティスト イン レジデンス」の取組が紹介されました。

各地から報告を受けた後、市民、企業、行政の多様な交流のあり方、町並みの保存と福祉や経済活動、生活に裏付けされたまちの活性化などについて活発に意見が交わされました。

「町並み保存の活動も町並みを破壊から守る戦いという第一段階から、多様な価値観を見出して活動を展開する第二段階に入ったようです。今後は、複数のグループが連携していくローカルネットワークや経営のノウハウといったことが重要になるでしょう」と、三村浩史氏（関西福祉大学教授 京都大学名誉教授）の総括でミニゼミは幕を閉じました。

ゼミについてのお問い合わせ

京都ミニゼミ事務局 075-342-2600  
(学芸出版社内)

まちづくりは人と人とのコミュニケーション

## 京都・学生まちづくりコンクール 表彰・発表会開催される

京都・学生まちづくりコンクールのしめくりとして、昨年12月18日にウィングス京都イベントホールで開催された「表彰・発表会」。参加学生たちが緊張の面持ちで見つめる中、地域代表から各賞の発表と表彰が行われました。各モデル地区で最優秀賞に選ばれたグループによるプレゼンテーションのあと、コーディネーターに宗田好史氏（京都府立大学人間環境学部助教授）を迎え、地域代表の皆さん方と、作品講評とともに今回のコンクールを振り返りました。以下は、その時の主なコメントです。



「コミュニケーションが今回の結果につながった。どのグループからも非常にユニークな発想と明日からでもすぐに活用できる問題を提出いただいた。これから西陣に来て、西陣ワッショイなどに力を貸して欲

しい」(西陣学区：吉川会長)

「短期間に我々の学区を綿密に観察し、どの作品も素晴らしかった。審査投票の結果もほとんど差がなかったが、現実問題より夢の部分を買った」(富有学区：森会長)

「現実的にできることと、将来に向かっての夢を持たせる計画という点を踏まえて選ばせていただいた。大きな学区の空間をいかに効率的に使うか、またアートセンターを中心としたまちづくりも評価したい。地元人間としては、これからいろいろと研究学習させていただきたい」(明倫学区：秋山会長)

「南部地区は、いずれも新しい都市を提案しつつ、伏見旧市街との関係を踏まえた非常にユニークで優れた作品。我々としてもぜひこれを実現させることができればと思う」(京都市都市づくり推進課：深井担当課長)

「地域の人のコミュニケーションは、我々まちづくりに関わるプランナーにとって非常に基本的な課題。コミュニケーションを忘れては、いいプランはできない。今回の経験を次の学年、これから学びに来る学生たちにも伝えていくことが建築教育、プランニング教育にとって重要だ」(宗田氏)

また、学生からも、「地域の生の声を聞くことで、地域を実感し、課題解決と将来のまちづくりへの提案を行うことができた」など感想が語られました。

ディスカッション終了後、ホール前ロビーでは、展示作品を前に、学生と地域の皆さんが、それぞれの想いを語り合う光景も見られ、今後の学生と地域との新たなパートナーシップのまちづくりの展開を予感させました。

### コンクール作品集を発行

全応募作品を掲載した作品集を景観・まちづくりセンターで配布しています(無料)。郵送ご希望の方は「学生まちづくりコンクール作品集希望」と書いて、390円分の返信用切手を同封の上、センターまでお送りください。

### 各モデル地区最優秀作品より



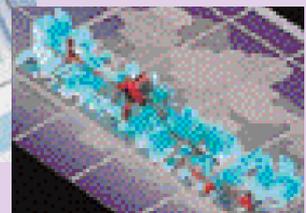
西陣学区(学生の発表の様子)



富有学区(らくがき壁)



南部(京都南部環境庭園都市)



明倫学区(路地空間の建築的提案)

### 京都・学生まちづくりコンクール審査結果

地区	賞名	大学・グループ名	作品タイトル
西陣学区	西陣大賞	立命館大学/西陣町家調査隊	「西陣学区活性化グランドヴィジョン提案」
	優秀賞	京都府立大学/システムデザイン	「(株)西陣」
	「	立命館大学/西陣班	「住みたい・来たい・伝えたいまち西陣」をめぐって-西陣・まごこと博物館構想-
富有学区	総合評価優秀賞	同志社大学/伊多波研	「新たなコミュニティの創造と飛躍」-西陣学区版土地情報バンク構想-
	「	京都工芸繊維大学/西村研究室	「富有コミュニケーションパーク計画」
	「	同志社大学/真山研究室	「世代を超えたふれあいの場所・ネットワークづくり」
	「	立命館大学/都市研究会	「富有館構想」
	「	京都大学/高田研究室	「敷地境界線の相対化による道路再生 住民参加型街区更新シミュレーション」
明倫学区	明倫大賞	平安女学院短期大学/アグネス	「まちづくりカルタを作ろう!」
	優秀賞	京都工芸繊維大学/森田研究室A	「明倫オープンスペース・ネットワーク計画」
	準優秀賞	立命館大学/アトリエ凡人	「Active 明倫」
	努力賞	京都工芸繊維大学/西村研究室	「明倫地下構想」-旧明倫小学校を中心としたコミュニティづくり-
	「	京都大学/東樋口研究室	「新旧の接点・ベストミックスを探る」
南部地区	大賞	京都府立大学/明倫ネット	「明倫の「ひと・モノ・暮らし」を活用してまちを元気にしよう!」
	優秀賞	立命館大学/K.K.K.	「住み慣れた明倫に住み続けることができるように」
	準優秀賞	京都工芸繊維大学/森田研究室B	「路・家・編」(michi)(uchi)(nunoji)-まちの営みを織りなす-
	「	立命館大学/京都市まちづくりグループ	「まちがアトリエ Meirin Artist in Residence」
	「	京都工芸繊維大学/max stand	「neurocity project 水と緑と人に出会うまち」
	立命館大学/D or D	「Grass-Net」	
	京都芸術短期大学/Ahmet	「Water Net Project」	
		「PEDESTRIAN SHOWCASE 京都・歴史の回廊計画」	

## 地域まちづくりセミナー

### ~メイキング!いきいき定住物語~のスタート

#### 地域まちづくりセミナー

センターでは、地域の皆さんが、地域の特性を生かして個性的で魅力的なまちづくりに継続的に取り組むことができるよう様々な活動を行っています。その活動の一つとして地域の現状と課題を把握し、具体的な活動を組み立て、まちづくりを進めていく方法などについて学習する「地域まちづくりセミナー」を開催することになりました。このセミナーは、情報の提供や活動のきっかけづくりから、個別に抱える様々な課題解決に向けた内容まで、地域の空気に応じて開催するものです。

#### 上京区でいよいよスタート

3月5日を皮切りに、いよいよスタート。今回は、上京区を対象に、各学区から数名の参加を得て、4回シリーズで行います。「誇りを持ち、安心していきいきと暮らすまちづくり」をテーマにロールプレイングゲームで「いきいき定住物語」と題した、まちづくりシナリオを参加者全員でつくり上げます。

また、このセミナーは、地域のまちづくりを支援する専門家の方々と共に地域やまちづくりについて学習しながら企画運営しています。去る2月1日、9日の両日、セミナーの企画に先立ち、専門家の皆さんと一緒に京都の地域社会やまちづくりの活動状況について、



3月7日第2回地域まちづくりセミナーの議論の様子に地域で主体的に様々な取組をしている住民の方々からお話を伺い、意見交換を行いました。この取組の様子は、次号で報告したいと思います。

ロールプレイング：ある課題について、合意形成を目標として議論を進める場合に使われる手法の一つで、日頃の自分の立場を離れて、様々な人の立場になって考え、広い角度から議論を深めること

町家の保全・再生の事例

# 町家の豊かな空間と新ビジネスの融合

## リラクゼーションサロン「フォレスト倶楽部」

(下京区綾小路柳馬場東入)

「元々は東京に本店を構えていましたが、数年前、京都にお店を出すことになり、マンションの一角で営業を始めました。けれども、少し息苦しさを感じていたため空間の豊かな場所を探していました」とオーナーの皆野川さん。

貸店舗を探す中、不動産業者から空き家になった古い町家を紹介されたりもしましたが、あまり魅力を感じることができなかったそうです。こうした時に町家を改修した店舗に興味を持ち、色々なお店に行っていたという若い女性建築家に出会い、空間的豊かさを生かした京都らしい改修を提案され、一緒に再生事例を見に行ったりする中で、町家を活用することになりました。

改修の際には、基礎などがかなり老朽化していたため、構造補強に苦労されたそうです。新しく使用したものを古く見せるようなことはせず、古いものと新しいもの、それぞれの素材の持ち味を生かすよう手がけられた店内は、化粧品、ハーブ、雑貨などの販売、アロマオイルを使ったマッサージなど、安らぎ・くつろぎを与える空間として活用されています。

小さな通りに面したお店ですが、地域の方からも「通りが華やいた」「人通りが増え活気が出てき

た」という声があり、近くのお年寄りが贈り物にとお店を訪れることもあるとか。

「真夏の暑さ、真冬の寒さには適してないところもありますが、以前こういう家に住んでいたというお客様もおられ、懐かしいと喜んでいただけますし、何よりもお客様にリラックスしていただくことが第一なので、木の温もりや空間の豊かさが気持ち落ち着かせてくれると好評です。私たちも快く働いています」という店長さん。

京町家の持つ空間的な豊かさが、こうした新しいビジネスにうまく生かされています。



平成10年度賛助会員(平成11年2月末現在。50音順。)

〔個人〕

奥山 倫二	寺田 敬紀	堀岡 博
青木 正文	寺本 健三	博 敦士
秋山 智則	土井 健資	正木 哲雄
芦田 直樹	中井 秀和	松下 松浦
栗津 六男	桂 豊	松浦 光洋
伊坂 善明	神谷 潔	中川 慶子
石原 一彦	川口 東嶺	中川 健太郎
井手 正巳	川下 晃正	中川 水野
糸井 恒夫	川島 三郎	中野代志男
稲石 勝之	北里 敏明	長田 侃士
稲波 良幸	編川 雅則	中野代志男
稲本 浩一	木村 茂和	中村 昌史
井上 雅生	國井 正之	西川久壽男
井上 大蔵	小島 彩乃	西田 祐司
岩崎 清	小島 花乃	野原 康
岩崎 行雄	小西 昭代	橋本 清勇
上田 修三	小森 浩	長谷川 忠夫
植村 博之	阪本 隆哉	長谷川 輝夫
卯田 隆一	佐竹 和男	服部 俊幸
大石 明男	島崎 耕一	深野 全助
大谷 泰一	清水 武彦	林 建志
大西 均	杉山 義三	東川 敬春
大西 利加子	高木 勝英	平本 貴子
大橋 浩	高瀬 博章	平本 照子
大森 實	武居 桂	深井 敦夫
岡村 武井	佐代里 隆人	福井 博茂
岡本 晋	竹井 哲	藤本 春治
小川 和彦	竹林 哲	平家 直美
奥 美里	田村 佳英	星川 茂一

〔団体〕

アジア航渡 株 京都支店	京セラ(株)
大阪ガス(株)	京都駅ビル開発(株)
大阪ガス(株)京滋事業本部	京都ステーションセンター(株)
オムロン(株)	京都リサーチパーク(株)
(株)オーセンティック	京滋マンション管理対策協議会
(株)大林組京都営業所	清水建設 株 京都営業所
(株)沐津工務店	中央復建コンサルタンツ(株)
(株)京都科学	住生活研究所
(株)京都放送(KBS京都)	都市居住推進研究会
(株)ジェイアール西日本伊勢丹	中沼アートスクリーン(株)
(株)ゼロ・コーポレーション	日新建工(株)
(株)地域計画建築研究所	日本電信電話 株 京都支店
(株)地域生活空間研究所	花豊造産(株)
(株)西利	松下電器産業(株)公共システム
(株)旧米	営業本部関西支店京都営業所
(株)堀場製作所	ローム(株)
(株)増田組	渡文(株)
関西電力(株)京都支店	

## 「京町家まちづくり調査」

京町家まちづくり調査は、調査総数約2万4千件に達しました。この全国初の大規模な都市計画調査に参加いただきましたボランティアの皆さんに改めましてお礼申し上げます。

センターでは、皆さんと一緒にデータを読み解きながら、今後の京町家の再生について意見交換を行うことができることを楽しみに、現在も回収が続いている約4千件のアンケートやトヨタ財団の助成調査による8千件の調査結果を含めて、データの入力作業に取り組んでいます。

この調査を皆さんの参加をいただきながら行った最大の目的は、多くの方々との連携による「京町家再生活動」の契機としていくことにあります。このため、次に予定しているヒアリング調査はその第一歩として取り組んでいきたいと考えています。これまでの調査で分かったことや木町家に関する様々な取組の状況などを伝えながら京町家居住者との交流を促進し、具体的な再生活動につなげたり、再生に必要な要望をきちんとお伺いします。

また、このヒアリング活動を通じて、京町家の居住者をはじめ、参加いただく方々の京町家や京都のまちづくりに対する様々な思いの共有を図り、さらに多くの方々や関連する団体の方々が参加する京町家再生の人材と情報のネットワークの形成に取り組んでいきたいと考えています。

今後も、皆さんのご指導とご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 京のまちの今昔物語

中京・室町の商家の蔵(1978年頃)

大店には、建具や屏風など住まいの調度を収める蔵の他、大切な商品を収める蔵もあった。防火のため、小さな祠を祭り、火災時に開口部を塗り込める土や防火用水が常備されていた。手桶からポリバケツに変わっても、心構えは同じ。



「京のまちの今昔物語」

では皆さんがお持ちの昔の写真を切り口にして、現在の京都の問題点を再確認できたらと思います。

皆さんもお宅のアルバムの古い写真を探し出してぜひ投稿してください。

今回は写真家・松尾弘子さんから写真とコメントをいただきました。

## 『まちづくり交流』

まちの景観を考える際、色は重要な要素の一つです。今回は、京都の色を焦点に様々な調査・研究活動を展開している「街の色研究会・京都」を紹介し、本研究会は研究者をはじめ、建築家、デザイナー、主婦、学生など約100名の会員が全国から参画、パートナーシップによる積極的な活動を自発的に展開している研究グループです。

### ～色を通して京都の景観の研究・提言～

京都の景観のイメージは、年々変化してきているといわれていますが、それは材料や技術の進歩、生産や組立のシステムの変化、加えて相続税問題やライフスタイルの変化など種々の要因が複雑に絡み合った結果といえます。そして、まちのイメージは建物の形状や材質、そして色により形成されています。「色は、それぞれの地域文化と大きく関わっています。色はその地域のメッセージですね」と事務局長の村上はらみさん。

「街の色研究会・京都」は、平成3年の秋に「公共の色彩を考える会」と『京都の街の色』シンポジウム組織委員会が京都で開催したシンポジウムを契機として、シンポジウム実行委員会のメンバーが核となって発足した研究会です。

これまで色彩に焦点を当てながら、瓦や壁、町並みの色と景観についての基礎的研究や調査、パネル展、座談会や色彩文化講座、見学会など様々な活動を展開してきました。

あわせて、色彩ガイドライン研究、屋外



御池通色彩悉皆調査の様子（平成8年7月）

広告物の色彩調査研究、景観測色研究、公共都市施設の色調査研究、景観照明調査研究、伝統景観色彩研究、の6つの部会活動もそれぞれ活発に展開されています。

### 街の色研究会の研究・活動内容

研究会では様々な調査活動を行っています。御池通では鴨川から堀川通までの沿道の色彩の悉皆調査を行い、この第一次情報を分析、御池通にふさわしい色彩を導きだしました。

多くの調査を通し、成果とともにたくさんの

課題を見出すこともできました。まず、景観においての色彩の特定が困難なことです。つまり明度と彩度によって物の色は測定できますが、景観における色は天気や時刻、そして見る人の感情等によって様々な見え方をするからです。景観と色彩の濃密な関係はわかっていながら、本質的な研究はほとんどされてきませんでした。実は京都特有の聚楽色も数パターンあります。研究会では、景観と色彩の調査・提言だけでなく、色彩についての基礎研究も行っています。

### 街の色研究会の目指すもの

「京都は日本の伝統文化を様々な面で継承する歴史文化都市ですが、町並みにおける色彩の継承については成熟しているとはいえません。手探り状態ですが、方法論を見つけていきたいと考えています。もちろん、京都は地域ごとに様々な特徴を持ったモザイク都市ですので、これに見合った微妙なニュアンスの違いに対応できる方法論が必要です。色彩のグランドビジョンが必要ですね。調査データを様々な場で提供してきましたが、今後は具体的な地域のまちづくり活動と連携し、共同の勉強会等も行いたいと思います。」(村上事務局長談)

地理情報システムの発達がめざましい今日、色彩の要素が加わることで、より深い地域理解が得られるとともに、より具体的な地域の将来像を描くことが可能になると思われます。

お問い合わせ：街の色研究会・京都事務局  
〒605-0981 京都市東山区本町15-784  
三竹園美術文庫内  
TEL：075-561-6241

## まちづくり提案

### 「ART-TECまちなみ協議会」

～ベンチャー企業の新規技術を  
まちづくりに生かす～

今回のまちづくり提案では、「ART-TECまちなみ協議会」(平成9年10月発足、ベンチャー企業をはじめ、まちなみデザインの専門家、学術研究者、地元施工業者等が協同で、まちなみづくりにふさわしい新規技術のあり方等を模索している)事務局の小林達弥氏にお話を伺いました。

「近年、景観や環境をテーマとしたまちづくりに関するフォーラムや協議会が数多く開催されていますが、これまで技術的な観点も含めた検討の場というものはあまりなく、せっかくの提案も実現化に至らないケースが多くありました。そこで、本協議会では議論を実現させ、形に結びつけることを目指して、技術とまちなみづくりの関わりについての検討を行っています。」

参加している個々のベンチャー企業は、デジタルインク技術、特殊転写技術、石材等の汚染防止技術等、独自の技術を中心に事業展開をされていますが、協議会ではこうした新

規技術について、特定の分野や利用法に捕らわれずアイデアを創出し、議論し合うことにより新たな活用方法の研究や提案を行うとともに、さらに提案の具体化にあたっての問題点や課題を明らかにし、これらを解決する新たな技術開発について研究されています。

例えば、あらゆる箇所にどのような画像でも転写できる技術(トランスアートシステム)は、これまで美観上見落されがちだったマンホール、消火栓の蓋や、修復困難な建造物仕上げ材の欠損・汚染箇所等にも有効であり、その場所にふさわしい必要とされる画像を転写することで、まちなみの形成に貢献でき、さらにこうしたデザインの検討を地域住民等の参加を得て行うことにより地域のコミュニティ形成につながります。また、環境を汚染することなく石材等の汚れを除去でき、公園の落書き消し、老朽化した公共施設等のリフレッシュに活用できる技術は、人にやさしく



定例会での議論の様子

環境にやさしいまちなみづくりの保全に寄与することができます。

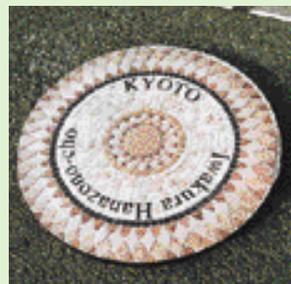
協議会ではこのたび、月1回の定例会や試験施工などの活動の中で議論、提案を踏まえ、まちなみづくりに貢献する、新しい技術開発の指針となることを目指して「活動報告書」を発行されました。

こうした新規技術とまちなみ形成の関わりの中で、技術の多面的活用の可能性から具体的なまちなみデザインのアイデアを発信することは、日常的にある身近な“まちなみ”をより良好なものにしていくきっかけになるのではないのでしょうか。

9年度参加企業：(株)大木工藝、(株)ピアンコジャパン、ウベボアンドマジ(株)、日新建工(株)、三栄建工、大和証券(株)  
現在、新規参加企業を募集中

お問い合わせ：アートテックまちなみ協議会事務局  
(小林企画事務所内)  
〒606-0955 京都市左京区松ヶ崎雲路町17-1  
TEL 075-466-2410

<http://www.dokakong.co.jp/art-tec/matinami.html>



デザインを転写したマンホール

## ニュービジネスの動向

このコーナーでは、ビジネス界で新しく立ち上がった、もしくは企画段階の新発想のビジネスの動向についてインタビューによる紹介を行います。

### 成和サプライ 株式会社

代表取締役 山本泰雄氏

事業内容を教えてください。

もともとは、センサー等電子機器関係の企画・設計、製造販売を行ってきた会社で、その他にも、今回ご紹介するオゾンの発生装置の開発、販売を手掛けています。オゾンには、殺菌・脱臭等の作用が認められていますが、既存の発生装置は高温多湿に弱く、発生が不安定になる等多数の問題がありました。自社が開発した「プラズマオゾン発生管」は、そうした問題点を解決し、様々な商品開発が可能になりました。現在、大手メーカーと共同で、あらゆる生活シーンに対応できる製品の企画・開発に取り組んでいます。



オゾン発生装置はどのようなものを利用できるのですか？

今は業務用が主流ですが、今後は家庭でできるだけ気軽に使えることを発想として

考えていきたいと思っています。既に商品化しているものでは、生ごみ処理機、冷蔵庫やトイレの脱臭、オゾン水によるまな板・野菜の殺菌や歯の洗浄等があり、生活のあらゆる面で利用されています。風呂場の防カビ対策として、消灯後、一定量のオゾンが発生するよう装置を組み込んだ風呂用照明も現在、企画・開発しているところです。

一時期話題になった24時間風呂にも活用され、衛生面でも問題がないことが証明され、商品化に至ったのですが、あいにく「レジオネラ菌」騒動で製品のイメージが悪くなり、プランそのものはお蔵入りとなってしまいました。

京都でものづくりを行う利点は？

我が社では、10数年間、自分のところで工場は持っていませんが、下請けメーカーさんと協力して製品を作ってきました。工場を持たないのは、京都には素晴らしい会社や工場がたくさんあり、そこ協力して商品を生み出すことがいいものづくりにつながるという土壌があると考えているからです。歴史的にも、西陣を中心とした繊維産業では、染屋、紋屋等多くの業者がそれぞれが分業だけでも、集大成してものづくりをやってきたという流れがあります。このような伝統産業を培ってきた土壌が、逆に新しい発想の企業の誕生を育んでいるようにも思われます。

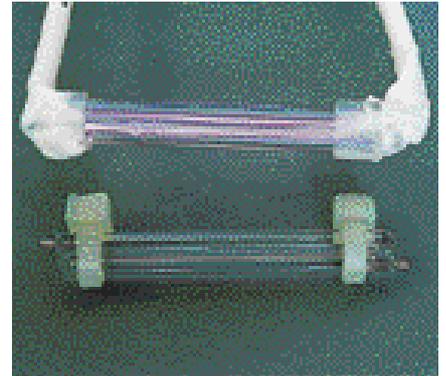
かといって、他力本願的ではなく、自分の会社のコンセプトはきっちり作った

うえで、自社が責任を持って開発生産をやっていかねばと考えています。

今後の事業展開は？

我が社は、どちらかというと、隙間商品、よそにない商品を大手メーカーさんに提案して、大手メーカーの名前で販売、生産、コーディネートをするというのが、この10年来の仕事、それがベースであったのですが、自らがイニシアチブを持って売れる商品、我々にしかできない新規商品をつくってみたい、という思いが強くなります。そうしたことを踏まえて、この2、3年で大きな事業展開を図っていききたいと思っています。

また、今後は時代の流れに応じて、プラント、下水消臭、廃棄ガス等環境問題にも対応できる製品、また、高齢者や身体障害者等が寝たきりにならない、介護者が必要としないための生活機器、介護機器の技術開発等も行っていきたいと考えています。



オゾン特殊発生管

## 《センター解説アワー》

### 【ユニバーサルデザインとまちづくり】

バリアフリーからユニバーサルデザインへ

「バリアフリー」とは、障害のある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去するという意味で、1974（昭和49）年に国連障害者生活環境専門会議が「バリアフリーデザイン」という報告書を出した頃から、この言葉が使用されるようになりました。もともとは建築用語として登場し、建物内の段差の解消等物理的障壁の除去という意味合いが強いです。より広く障害者の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的な全ての障壁の除去という意味合いでも用いられています（障害者白書より）。

日本でも、バリアフリーを推進するため、1994年に「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の促進に関する法律」（通称ハートビル法）が施行され、駅や銀行、百貨店などの公共施設は車椅子が通れるようにすることなどが定められました。

最近ではさらに一歩進んで、全ての人に使い勝手がよいというノーマライゼーションの理念のもとに、ユニバーサル（普遍的な）デザインという言葉が生まれました。この言葉と概念は、北米・EU諸国では一般的になってきているようです。

ユニバーサルデザインとは？

ユニバーサルデザインとは「できる限り最大限、全ての人に利用可能であ

るように製品、建物、空間をデザインすること」（Ron Mace）です。つまり従来のバリアフリーデザインのように高齢者や身体障害者が利用可能なように「特別に」デザインするのではなく、全ての人が「平等に」利用可能な製品や空間をデザインすることです。

ユニバーサルデザインとまちづくり

まちづくりにおいては、地域住民の誰もが住みよい環境をデザインすることが目的であり、そしてそれは「ものづくり」という物的なものだけでなく「こころ」においても、住みよい環境をデザインすることが求められています。そのためには、自分の要求ばかりを主張するだけでなく他人の意向を認め、お互いを尊重しながら、全ての人にとって平等で住みよい環境を創造していくことを目指す必要があると思われます。

このように考えると、ユニバーサルデザインの理念には、まちづくりの理念に共通する部分が多いといえます。

ノーマライゼーション：北欧から世界へ広がった障害者福祉の重要な理念。障害者を特別視するのではなく、一般社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、共に生きる社会こそノーマルであるという考え（障害者白書より）。

# 私と京都



(財)京都市景観・まちづくりセンター インターシップ研修生  
ペネロピー・クリーグマン

今日は。私はアメリカから来ました、ペネロピー・クリーグマンです。アメリカでは、ウエストバージニア、ニュージャージー、ニューヨーク、ワシントンD.C.、テキサス、ペンシルバニア等の色々な州に住んできました。ニューヨーク州のコロンビア大学では、政治学を専攻し、その後テキサス州立大学の行政・公衆学修士プログラムを卒業しました。昨年は、ピッツバーグ大学の日本語・日本文化集中コースで、日本に来る準備のための勉強をしました。

昨年の8月から、京都市景観・まちづくりセンターで研修生として働きました。私が学んできた行政政策・運営を生かし、京都における都市計画に関する問題について勉強してきました。古都京都における、町家及びまちづくりに関する経済・社会・政治的問題を学習することはとても興味深いものでした。そして、現在、京都に見られる状況が大変複雑で込み入ったものであるということを見発しました。勿論、徹底的な研究をするには長い歳月が必要ですが、このセンターで研修生として働かせていただいた6ヶ月の間、特に町家に関して、京都の将来に対する見解を得る機会に恵まれました。簡単な答えというものには存在しませんが、一つだけ明らかかなことがあります...それは、町家の保全の計画とは、現在の経済・社会・政治の勢力の枠組みからデザインされるべきであ

るということです。京都市の財政にかかるプレッシャーとは莫大なものであり、町家に投資することが必ずしも正しいと、決めてかかることはできません。都市化や国際化により増大するこのプレッシャーを背景に、京都市民は都市計画を精神的・経済的の両面から見て、価値があると見なさなければなりません。何と云っても、これは市民の生活水準に関わるのです。さらに、保全に関する議論というのは、京都における現在の政策環境の文脈の中で語られるべきだと思います。町家は過去からの遺産を思い出させてくれますが、町家の保全は、経済的に活発な地域を造るために現在の需要と課題を組み込んで計画するべきです。町家の保全は、建物の美しさを維持するだけではなく、人々の町家への関わり方、経済分析、文化活動などを基本としたものであるべきだと思います。町家に住む人々の生活水準及び経済・環境も、町家の保全を進めるに当たっての主たる目標であるべきです。

簡潔に言えば、町家の機能は、時代と環境に応じて変化すべきものなのです。観光客のために京都の町を大きな博物館にしてしまうのではなく、町家に暮らす個人の気持ちから保全を進めることが大切ではないでしょうか。それは、ただ単に町家が美しいというだけでなく、特有の文化の源であり、伝統であるからです。

## センター語録

一昨年の秋に産声をあげた当センターも、二度目の初春を無事(?)迎えることができました。京都のまちづくりを促進する一組織として、ようやく歩き始めた子供のようにおぼつかない足取りではありますが、一步また一步と成長しているところでもあります。

学生の皆さんに提案していただいた、まちづくりコンクールも感動の表彰式を迎えることができました。学生さんたちがリラックスして地域へのまちづくりの提案づくりに集中できたのは、地元の皆さんの温かい見守りと惜しみない協力、機会毎のコミュニケーションによるものだと思います。そうした意味で、今回の提案は、地域との協働作業の中でできあがった地域の個性あふれる21世紀への未来図ともいえるでしょう。

地域のまちづくりは、初めての子育てと同じく試行錯誤の連続で、“手探り状態”でわからないままも何とかこなしているうちに、ようやく格好がついてきて、気がついたとき我が子は独り歩きをしていた”みたいな感じかと思われま

す。両方に関わっている私としては、明日の予想がつかない毎日に少々オーバーヒート気味ではありますが、波瀾万丈の日々を楽しみつつ、これに携わる多くの方々との出会いをこれからも大切にしていきたいと思っています。(Y.M.)

## ぽあとおあ湿布 vol.6



## センターからのお知らせ

### 賛助会員の募集 (平成11年度分)

京都のまちづくりに貢献したい!センターの活動を応援したい!そんなあなたの熱意をお待ちしています。

(特典)

- ・ニュースレター(年4回・季刊)の送付
- ・ニュースレターでの活動紹介
- ・シンポジウム、セミナー等への優待

(年会費)

個人1口:5千円 団体1口:5万円  
(平成11年4月~平成12年3月)

### まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくり活動において、各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。

### お寄せください ご投稿・ご意見

ニュースレターを盛り上げるご投稿や、京都のまちづくり、センターに対するご意見・ご提案をお待ちしています。Eメールもご利用ください。

### 投稿の方法

原稿や写真等の資料とコーナー名・住所・氏名・年齢・電話番号・匿名希望の有無(有りの場合はペンネーム)を明記し、「京まち工房」係までお送りください。封書・はがき、又はFAXでも結構です。紙面の都合上、全てを掲載できないこともあります。

(財)京都市景観・まちづくりセンター 京まち工房 案内



〒604-0846 京都市中京区両替町通押小路下る金吹町452(元龍池小学校内1階南側)

TEL 075-212-4031

(支援・参加・入づくり)

FAX 075-212-4047

e-mail: kyoto-ws@mbox.kyoto-inet.or.jp

相談の受付等

月~金(祝日を除く)の9:00~17:00

来所される場合はなるべく事前にお電話ください。

なお、駐車場はありませんので地下鉄等をご利用ください。

ニュースレター 京まち工房 第6号 1999年3月

編集・発行 (財)京都市景観・まちづくりセンター

印刷 日本写真印刷株式会社